

十七文字の抒情詩



今回はたくさんの投句がありました。
しっかり夏になってしまい春惜しむ感覚がなくなりましたが、惜春の句もたくさん
集まりました。どの句も素晴らしくていいな~とうれしくなりました。

ゆうこ ゆ 健 H かっこか ちか せ

出港の汽笛のなりて春逝けり 健

H ドックオブベイ（栈橋に腰掛けて出てゆく船を見ていると友も金も無かった昔を思い出してしまう）なんて歌があった。暑くなっちゃって春惜しむ感覚がわからん。

ゆ 船の汽笛と季語が合っていていいですね。 *出港の汽笛の長さ春逝けり

垣の葉のそそり立ちおり夏隣 健

H 会社へ向う歩道の端が長い垣根になっているんですが、気が付くと葉が垣から上へ上へと伸び出ていました。反対側の垣は小さなつつじが垣全体を赤く染めています思ったように句にならない…。

ゆ 普段気にしていなかった自然に目が行くのが俳句の良いところですね。
天に向かって伸びる若葉と季語がマッチしていていいですね。

せ その垣根は冬には椿が咲いてたんだよね。

か 「夏隣」っていうのは季語なんですか？日常生活から俳句をひねり出そうとしていて、健ちゃんはすっかり俳句が生活の一部になったね。

ゆ 俳句が生活の一部になるってすごい事だね。今までと違った見方が出来る様になるってすばらしい事です。 「夏隣」は晩春の季語です。春逝くとか惜春とかは行く春を惜しむ気持ちが強いけど、夏隣って言うところから来る夏への思い期待などが感じられますよね。

モーニングコーヒーかをる夏隣 ゆうこ

墨象の文字の勢ひ夏隣 ゆうこ

夏来たり曇りガラスに樹々の影 健

H 若葉も大分増えて新緑といった感じになってきましたね。窓に映る葉の影も緑っぽいような気がする。

ゆ なにもかもが緑に・・・若葉って見ているだけで元気になれるそう。

*窓々に映える緑や夏来る

足裏の砂引く波や夏はじめ 健

江ノ島・鎌倉あたりの浜に出て海を見ていると裸足になって海に入ってみたくになります。

初夏の海ってまだ人も少なく、裸足で砂浜を歩きたくになりますよね。

*透き通る足の白さや初夏の海 で、砂や波を言わなくても砂浜を歩く様子を感じませんか？でも・・・健さんの句は浜辺に立つ男っぽさがあっていいですよ。。

実際は大の大人が海水浴でもないのに裸足で海に入っていくのはちょっと恥ずかしい。初めは「足裏の引く波つよし夏はじめ」だったんだけど「波つよし」が記憶の感覚だったので「砂引く…」に直したんだけどね。かなり説明っぽくなってしまった。

足の下で砂が流されていくのって、海に向かっていくような感じがするよね。足の白さや、って健ちゃんが詠んだら、怖いもんがあるよお・・・。y u k oさんの句に荒井由実の大好きな歌思い出した。

足の白さや、ってのがなくても十分女っぽい気がする。あらぶる男が（健ちゃんね）詠んだ句とはとても思えない(^_^) でも情景がはっきり浮かんでとても好きです。

私もこの句好きです。確かに足の白さは女っぽい・・・ごめんね健さん。

春惜しむ夜風に混じる雨の音 健

移ろいの短き春を惜しみけり

潮騒は両の耳より春逝けり

ちかちゃんは春はくるまでが長いのに行くのが早いという。そういうのをというので、移ろいの…というのを作ってみたんだけど出来は良くないね。

今回、随分優しい言葉を使ってるね。

春惜しむとか春逝くとかそういうのが女性っぽいのかも・・・でも、どれも良い句だと思うな。

特に 潮騒は両の耳より春逝けり にはう～んとうなってしまった。上手いよ～。

新刊の発売遅れ街薄暑 健

青空の古本まつり街薄暑

健ちゃんも古本祭りに参加したらいいよ、勿論売るほうで。

やっぱり古本は健ちゃんイメージだね。

最初は 絶版本探し求めて街薄暑 だったんだけどね。

私も古本のほうがいいと思う。街薄暑が効いてる・・・。

倉敷の再会果たし薄暑かな ゆうこ

再会って虎次郎の絵に・・・ってことなんだけどね。

朝日射す樹齡三千年の新樹かな 健

わざと字余りにするなんざあ、粋だねえ、健ちゃん。

か そうなのか。「樹齡三千年」って何文字と数えるのかな？

じゅれいさんぜんねんの→じゅを一字として10文字になるのかな。

け 鎌倉右大臣実朝の忌なりけり の字余り句を真似て作って見たいと思っていたんだけど上五がぴったりくるのがない。仰ぎ見るに変えても説明っばいし…。

ゆ 朝日射すでぴったりだと思えます。

伝統俳句的に言えば「朝日射す三千年の新樹かな」なんだろうけど…。

満天星も霞みて居たり宵の雨 うさお

うさおさん初参加。これからどんどん参加して達人を目指すか？

ゆ いいですね～あの…尾崎方哉みたいな感じですよ。

季語で言えば満天星（秋）霞み（春）で季重なりになってしまうのですが、そういう事ではない感性を感じます。方哉とよく似た感性…

私は山頭火より尾崎方哉の方が好きなんです。これからもどんどん参加してください。

土と化す淡き花片に春惜しむ かつこ

桜の花びらがすべて散ってしまった後の何となく淋しい気持がよく解って素敵な句になっています。

土と化す淡き花片や春惜しむ や…という切れ字を使うとより句に広がりが出るのでは…

過ぎ去りし車窓に見えるは遠い日の

夢の続きか紫陽花の雨 ちか

ひとり勝手に「31文字の抒情詩」

か 私なんかには31文字あったほうがわかりやすい。これでもかっくらい説明してくれる人好き。想像力の欠如かしら。

ゆ 私も短歌の方がわかりやすいって思ってたけど、俳句の17文字ってギュッと凝縮されていて無駄な言葉を省いていってしかも誰にでも解るようになってるのが難しいし面白いと思えるようになったな…最近。

せ 17文字の潔さってのはいいよね。

春は春夏は夏とて麦酒を飲む ちか

別にこういうほど、お酒を好きなわけではけっしてない。

か ううん、すっごくお酒好きだと思う！



わしもそう思う。
私も。
.....

初恋の苦さを知るや青き春 ちか

これって、春季雑詠だよなー。惜しむ春じゃないよねー。でも許してもらっちゃおうかな
いいのいいの春季雑詠で。麻生ちゃん初恋？

花言葉よりは真面目と紫陽花が ちか

これじゃ俳句ってより川柳？
気が多いとか移ろいやすいとか？面白い句になってると思うよ〜。

紫陽花が選ぶ背景雨の色 ちか

麻生が学校の宿題で俳句ってのがあって、そのときにこれを使った。それだけ子どもっぽ
いってのはよくわかる。つか、宿題くらい自分でやらせろって？ へへーい。
すごくよくわかる。子供の宿題くらいわかりやすいの好きだな。
そうなのよ、俳句は子供に詠ませろって言うくらいなもの、分かりやすいのが一番よね。



こちらは日出彦さん作です。
どの句もきちっと出来ていて素晴らしいと思います。

この春も花競いたり町外れ

*この春も花を競ふや町はずれ (競いたりが少し硬く感じるので・・・)

雲疾く歩む先々花嵐

惜しい事に三段に切れています。声に出して読んだとき滑らかな方がいいんですよ。
*雲疾し行く先々に花の散る くらいで良いのではないのでしょうか。

靄流れ中央道は宙に架かる

靄囲気すごく良くわかります。宙は“そら”と読むのでしょうか？“ちゅう”と読むのでしょうか？

八重桜車座になりゼミ進め

*八重桜車座になりゼミ進む 最後を結んだ方が句がより締まるかな・・・でも良い句ですね。

家族増え川辺に群れる鯉のぼり

家族が増えた事か川辺に群れている事か・・・どちらかに焦点を絞った方がいいのでは。
*鯉のぼり小さき数を増やしけり
*川風を孕んで群れる鯉のぼり



濃く淡く緑戻れりダムの山

*濃淡の若葉戻れりダムの山 若葉で初夏の季語が入ります。

せせらぎや鮎釣り人は谷に溶け

この句すごく好きです。風景も浮かびますし・・・素晴らしいです。

新緑に染まる川面に鮎跳ねて

これもいいですね。目の前に景色が見えてきます。

跳ねて・・・と言うと少し説明っぽい。だから・・・?となります。

*新緑を映す川面や鮎跳ねる ではどうでしょう。

主いずこ葉陰を落とすビオトープ

ビオトープというと人工的に作った庭園などの事ですよね。

こういう言葉が俳句の中にあるとまた新しい風が吹いたような気がします。

宵闇にかわず初鳴きビオトープ

この句特にいいですねえ。

日出彦さんもうさおさんと同じ様にこれからもどんどん投句して下さい。楽しみにしています。

皆さんすごくお上手ですね。こうやって少しずつ俳句の輪が広がって行けば・・・と
思っています。これからも宜しく願います。

この母を愛しと思ふ母の日に ゆうこ

次回は「夏雑詠」 特に兼題は設けませんので夏を存分に詠んで下さい。